

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
こころとからだのしくみ I Physical and Emotional Mechanisms I		1年	前期 1 / 2	時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (介護福祉士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特記なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
新井文子	福祉棟2階	初回授業にて説明	授業中に指示します	
授業の概要				
基本的な人体の構造と機能を立体的かつ系統的に学び、日常生活動作と関連付けて理解する。そして、運動機能障害と移動に関する障害から生じる心身および日常生活への影響を理解する。また、それらの影響をバイタルサイン（生命の兆候）の理解を通して、客観的に捉える。さらにグループワークおよび発表会を通して理解を深める。				
授業の到達目標				
①基本的な人体の構造と機能について系統的に理解できるようにする。 ②移動に関する心身および日常生活への影響を理解できるようにする。 ③バイタルサインの意味を理解し、測定方法および介助方法を習得できるようにする。				
授業の方法				
講義、視聴覚教材の使用、グループワークおよび発表、演習と多様な形式である。人体の構造および移動に関連する障害について、提示された課題をグループワークにより取り組み、発表する。2回目以降のグループワークの際は、進捗状況を報告してもらい、適宜アドバイスをおこなう。バイタルサインについては、事前課題を個人ワークとして取り組み、それをもとに演習をおこなう。				
学習の成果				
①基本的な人体の構造と機能について理解でき、日常生活動作と関連付けながら、生活支援技術に取り組むことができる。 ②バイタルサインの意味を理解し測定方法を習得することで、測定時の介助が適切におこなえ、異常の早期発見につなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、人体の構造と機能を学ぶ必要性			
第2回目	人体の構造と機能① 視聴覚教材「医学一般」により人体の構造と機能を概観する			
第3回目	人体の構造と機能② 脳神経系（中枢神経系を中心に）			
第4回目	人体の構造と機能③ 脳神経系（末梢神経系を中心に）			
第5回目	人体の構造と機能④ グループワーク その1 課題の提示とグループワークの進め方およびまとめ方			
第6回目	人体の構造と機能⑤ グループワーク その2			

第7回目	人体の構造と機能⑥ グループワーク その3		
第8回目	人体の構造と機能⑦ グループワーク その4 発表の方法と進め方		
第9回目	人体の構造と機能⑧ 発表		
第10回目	人体の構造と機能⑨ 発表、補足説明（レポート1）		
第11回目	バイタルサイン① バイタルサインとは、事前課題		
第12回目	バイタルサイン② 測定方法【演習】（レポート2）		
第13回目	移動に関連したこころとからだのしくみ① 健康の定義、内部恒常性の維持、運動		
第14回目	移動に関連したこころとからだのしくみ② 移動とからだの動き		
第15回目	まとめ（他科目との関連、試験レポート提出日）		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		20%	サブテキストを活用し、積極的に取り組んでいる。
レポート		20%	①グループワーク：必要な項目を適切にあげ、まとめている。 ②バイタルサイン：事前に調べ、演習ができるようにまとめている。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		40%	要介護高齢者に多くみられる疾患や今後の学習に役立つ疾患や障害に関してまとめるレポート形式である。提出日の約1か月に一人一課題を提示する。指定された項目について調べ、適切にまとめている。
発表内容（態度含む）		20%	発表原稿の作成や発表の練習をしている。
その他			
教科書と参考図書			
教科書 ①新・介護福祉士養成講座14 第2版 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 ②「ぜんぶわかる人体解剖図」 成美堂出版			
履修上の心得・ルール			
自分の日常生活動作と関連付けながら学ぶことで理解に努め、簡略な人体の構造図が描けるようにしてほしい。グループワークにより協働性・協調性の重要性および調べる作業を通して自主性の必要性を理解してほしい。クォーター科目の前半であり、週2回の授業となる。			